

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170503924), 法人名 (有限会社 アイ), 事業所名 (グループホーム 澄川の丘 さくら), 所在地 (札幌市南区澄川6条7丁目1-1), 自己評価作成日 (平成25年1月31日), 評価結果市町村受理日 (平成25年3月5日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービスと併設しており、その機能を活用しながら交流を深めています。私たち職員は、入居者様と共に過ごす住まいとして支え合い生活をしております。ホームの前には栗林が広がっており、春には新緑で目と心で春を実感し、夏には木漏れ日で優雅な時間を過ごして頂き、秋には、栗の実を拾い栗ご飯や、茶碗蒸しと収穫を楽しみ、冬には雪景色を楽しみ、春を心待ちにするそんな、四季を感じ過ごしております。近隣には、中学校や、高校があり朝夕学生たちの賑やかな声が、登下校の様子を、ラウンジより眺めることが出来ます。放課後、耳を澄ますと、吹奏楽の演奏が聞こえてきたり、部活動の元気な声も届きます。また、体験実習(小学校2校・中学校2校)やボランティア活動の受け入れ、合唱コンクールや夏祭りの行事の参加など地域との繋がりを大切にしております。外出も、皆さんで空港など行きますが、個人での外出も出来る限り行っております、昔生活していた町へ行ったり、お墓参りへ行ったりと、その方お一人お一人の希望にあわせた外出をしております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=tr ue&JigvosvoCd=0170503924-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成25年2月22日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地に立地しているが、小・中学校も近く、登下校時の児童の笑い声や、吹奏楽部の演奏・グラウンドの歓声等が聞こえ、地域での生活が実感できる事業所である。利用者は買い物・調理・掃除などを職員と共にやり、家庭的で落ち着いた雰囲気の中、自宅にいるようにくつろいだ生活を送っている。また、歌・運動・趣味等のレクリエーションや外食・外出行事は、利用者の希望や意向に合わせて支援しており、演舞・コーラス・体操等の地域のボランティア訪問も多く、併設デイサービスの利用者とも交流がある。女性利用者には毎朝の整容に加え、パーマ・化粧・マニキュア等でお洒落心を支え、事業所の夏祭りには全員がゆかた姿で参加している。防災にも力を入れ、定期的避難訓練には利用者や地域住民も参加し、バクテリア型消火設備・避難用外階段・セコム通報システム・災害時備蓄品を完備している。職員は個々のレベルに合わせて内外の研修を受け、さらに福祉先進国である北欧諸国の福祉施設や、グループホームの視察にも順番に参加し研鑽している。恵まれた住環境の中、地域に根ざした家庭的で暖かい、地域密着型事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でその人らしく豊かな生活が出来るよう援助していくという理念のもと、日々業務に取り組んでいる。また、ユニットの理念とともに玄関に貼り出したり、朝礼で唱和をしたりして、職員が理念を共有している。	地域密着型の意義を盛り込んだ『澄川の丘』の理念と、1階2階の『各ユニット』の理念を目立つ所に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和し、全員で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、運動会や町内清掃の行事に参加している。地域のお店での買い物や美容室を利用したり、ホームの夏祭りには、チラシを配り、地域の方々に参加して頂いている。	高校のボランティア部の訪問や、中学生・小学生の職場体験、ヘルパー実習等で近隣住民が定期的に訪問している。事業所の夏祭りには町内の人達が参加し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の高校生のボランティア活動の受け入れや、小・中学校からの職場体験実習、ヘルパー実習受け入れもしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催している。ご家族様、町内会の代表の方、包括支援センターの方に活動報告や事故報告(原因・再発防止策含む)をし、スライドショーで利用者様の日々の生活の様子をお伝えし、要望や意見も伺っている。	運営推進会議は定期的に行われ、事業所の状況・行事予定と報告・研修計画・防災訓練等について話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市・区での管理者会議が定期的に行われており、毎回出席している。また、不明な点がある際は、出向いたり電話等を使用し連携している。	グループホーム協議会・管理者連絡会議などに参加して情報を共有し、行政方針の理解に努めており、常に利用者本意のケアサービスに取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を発足し、勉強会を行い、それを職員に伝達している。日々の業務でも意識を高め、拘束のないケアを目指している。	拘束に関しては、指定基準を具体的に確認し、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会で拘束や虐待を排除するケアについて意見交換をし、それを全職員に伝達し防止に努めている。また、社外研修にも積極的に参加し、拘束や虐待の意識を常に持ち続けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少なく、今後の勉強会のテーマとして取り組む必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族様にお会いし、十分な説明をし理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には、普段の生活の中で、不満や要望等がないかお話しをしている。ご家族様にも面会時や運営推進会議にてご意見・要望を伺っている。また、ホームの玄関先に苦情ボックスを設置している。	意見反映の機会を幅広くとらえて、担当窓口や家族会・外部相談機関の相談体制の周知を徹底している。運営推進会議には家族の参加も多く、意見を聴取できる場づくりに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング、毎月のカンファレンス、管理職会議、主任会議等を行い、意見等を聞く機会を設けている。	定例の管理職会議や主任会議での協議や、日々の連絡や報告等に業務上の意見を反映でき、さらに個人面談で意見提案を聞く機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の体調やストレスに気を配り、手当の支給、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会、職員のスキルにあった研修の参加、自主的な希望の研修に対しても、研修費や交通費の支給をしている。また、年一度の北欧の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会議や南区の一部の地域で計画作成担当者の勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とお会いし、認知症状・全身状態・生活状況を確認し、ご家族様や関係者様からも情報をお聞きしている。職員間でも情報を共有し信頼関係を築けるよう検討し、ご本人様の尊厳を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の事前面談にてホーム内を見学して頂き、ここでの暮らしを説明している。生活していくにあたっての不安やご要望、意見をお聞きし、安心してご利用頂けるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にて不安や要望、必要としているサービス等を聞き、それに応じられるようにその方にあつた支援を考慮し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の気持ちや思いを尊重し、敬う気持ちを忘れずに、洗濯物干し、洗濯物たたみ、お掃除等お手伝いして頂き、残存機能を把握しながら支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、普段の生活の様子をお伝えし、把握して頂き、お部屋やラウンジ等でゆっくりと過ごして頂いている。また、夏祭りやクリスマス会等のホームの行事にも多くのご家族様が参加して頂き、一緒に楽しまれている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等の面会の際には、ご家族様同様ラウンジやお部屋等で、ゆっくりと楽しい時間を過ごして頂けるよう努めている。	家族や親戚、友人・知人とは交流が続けられるように配慮し、以前の趣味活動や昔の遊びなども支援し、初詣や墓参りに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、席の配置を配慮しながら、居間やラウンジにてお茶会や体操、唄会等のレクリエーションを行い、職員が介入しながらお話ししたりして楽しまれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、お手紙や年賀状を頂いたり、入院先へお見舞いに行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様にとって居心地の良い環境になるように、利用者様の行動や言葉・表情を把握し、カンファレンスでは職員間の意見の共有をしている。	利用者の担当職員が決まっており、日常会話や様子から、本人の思いや希望をくみ取り、希望に沿った支援が行われるように本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から生活歴やライフスタイル等をお聞きし、その方らしい生活ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況を生活記録に記入し、希望に沿ったケアができるよう努めている。また、特記事項や連絡事項は連絡ノートに記入し、職員全員が把握し、情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員は介護計画に沿ったモニタリングを実施し、カンファレンスでは現状の把握とケアの検討を行っている。また、それに基づき、計画作成担当者がアセスメント、評価、介護計画の見直しを行っている。	定期的なモニタリングを行ない、利用者の変化や対応について家族・職員・看護師と話し合い、より良く暮らせるための介護計画を作成し、ケアに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとり個別にバイタル表、生活記録、受診報告書に記入し、ご家族にも閲覧できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスに遊びに行き、レクリエーション等に参加して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の方に避難訓練等の協力を頂いている。また、近隣の高校生のボランティアを受け入れ、お掃除や利用者様とのコミュニケーション等の支援を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、内科の往診を受けている。体調不良時には看護師とご家族様への連絡を経て、かかりつけ医と連携をとっている。かかりつけ医の指示で受診が必要な際は、受診をしている。	利用者希望のかかりつけ医には、入居後もそのまま受診できるように、通院時の送迎と付き添いをしている。事業所には看護師が勤務し、利用者の健康を支えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が日頃から利用者様の健康状態の把握をし、往診に立ち会ったり、受診の同行もし、常に相談できる環境になっている(医療連携)。また、看護師が夕方巡回に来てくれるだけでなく、夜間においても異常があった際は駆けつけてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際は、出来るだけ職員もお見舞いに行き、状態の把握をしている。また、ムンテラにも同席させて頂き、方向性についても検討をしている。また、利用者様の環境の変化がないように通院でフォローできる際は、そのように対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化の指針は説明しており、常時医療が必要になった際は、ホームでの対応に限界があることもお伝えしている。また、重度化した際は、ご家族様と話し合いをし、その方にとってより良い環境でターミナルを迎えられるよう検討している。	重度化した場合や、終末期のあり方については、関係者全員で今後の方針を早い時期から話し合い、不安感をもたない様に対応しており、職員はターミナルケアの研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、すぐ見れる場所に保管している。また、消防署で行われている救命救急の講習を職員は受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災、避難訓練を実施している。また、消防への通報システム、セコムへの自動システム、スプリンクラーも設置している。緊急時の連絡網、協力体制も整えている。	万が一の災害に備え、パッケージ型消火設備・避難用外階段・セコム通報システム・備蓄品を完備している。また全職員は救急救命講習を受講している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、個性に応じて心に寄り添う声かけを心がけている。	書類などの個人情報管理は、細心の注意をはらい、利用者を特定できないように留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や表情、行動等をよく観察し、ご本人様の思いを日頃から把握するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活リズムを大切に、希望に沿った生活ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、美容師が来られ、散髪やパーマをあてて頂いたり、外の美容室にお連れすることもある。また、ホームでは、毎朝身だしなみを整える以外、マニキュアを塗ったりお化粧したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを把握し、メニューに取り入れられたり、自力で箸を持ち食べる美味しさを感じて頂きながら、食事の準備・後片付けを行っている。また、もやしのヒゲ取り等のお手伝いもして頂いている。	利用者の好みを取り入れた献立を作成している。調理・盛り付け・片付け等を一緒に行い、共にテーブルを囲み和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮しながら献立を作成している。また、一人ひとりの食事量や水分量等をしっかり把握し、嚥下状態によって、お粥や刻み食等の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は義歯洗浄、歯磨きの口腔ケアを実施している。また、口腔内の状態によっては、訪問歯科を利用し、専門の方による口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。また、自分の気持ちを表せない方に関しては、サインや表情を読みとり、トイレへお連れしたり、出来るだけトイレで排泄できるよう介助をしている。	本人の身体的状況や心理的な負担も検討しながら、排泄の自立を支援している。自尊心に配慮した声かけとさりげない誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く摂ったり、ヨーグルト等の乳製品、お通じに良い食品を促したり、水分を多く摂るよう心がけている。また、体操や散歩を促し、体を動かすよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様一人ひとりの要望やタイミングに合わせて入浴を行っている。また、リフト浴も利用し安心して気持ちよく入浴して頂けるよう配慮している。	利用者の希望や体調に合わせ、いつでも入浴できるように支援しており、リフト浴も利用できる。入浴を好まない利用者には、声かけなどを工夫しながら支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活サイクルを大切に、休息をとって頂いている。夜間は気持ちよく眠られるように、日中の活動を増やしたり、日光浴をされるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理しており、袋には名前、日付、朝・昼・夕・就寝等記載し、服薬時に確認、飲み込むまで見守りしている。嚥下状態によってお薬用のゼリーを使用し内服して頂いている。変更がある際は職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を把握し、一人ひとりに合わせた力の活かした役割をして頂いている。負担にならない程度に洗濯物たたみ、モップ掛け、裁縫等お手伝いして頂き、メリハリある生活を送っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、気温を配慮しながら、近隣への散歩、外気浴、買い物、美容室等お誘いしている。ドライブ外出も行き、今年は円山動物園、苫小牧、支笏湖等へ行かれている。	一人ひとりの身体状態に配慮しながら、日常的に近隣散歩や、テラスで日光浴をしている。外食や行事外出の機会も多く、年間行事予定はパンフレットに明記している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお小遣いをお預かりしている。ご家族様と相談しながら買い物をしたり、利用者様から希望があった際は、職員と一緒に買い物に出かけたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもできるような環境を整えている。また、代筆等協力をしながら、お手紙や年賀状を送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の部分には誕生会や行事の写真を拡大し、皆で見れるように、廊下に貼っている。また、季節ごとの飾りつけも行い、居心地の良い環境づくりに努めている。利用者様にとって不快な音や光には配慮している。	事業所全体が、利用者の安全と介護者の動きを考慮した造りになっており、共用部分には写真や利用者の作品が飾られ、癒される空間となっている。皆が集うリビングの他に、ラウンジや和室もあり、一人で寛げる空間も確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の他にラウンジや和室があり、時には併設しているデイサービスに顔を出したりと一人ひとりがゆったりと時間を送れるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッド、写真、仏壇等慣れ親しんだものを持参して頂き、居心地よく過ごせるように努めている。転倒の危険がある方に関しては、ご家族様と相談しながら、お部屋を安全に過ごせるよう空間作りを行っている。	居室はタンス置き場やクローゼットも設置されており、整理整頓され清潔である。思い出のある家具や小物、家族写真が持ち込まれ、安心の場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具(歩行器)等の使用や、手すり(廊下、浴室、トイレ)の設置、床材はクッションフロア等の住環境を整えている。浴室にはリフトを設置し安全に入浴できるようにしている。		